

第20回 山口市中心市街地活性化協議会（要約）

1. 日 時 平成23年2月16日(金)19:15～20:15
2. 場 所 山口商工会議所5階コミュニティホール
3. 出席者 19名
4. 内 容

【報告事項】

1. (仮称)やまぐちマーケットプラザの名称決定と進捗状況について

名称は「マルシェ中市」に決定。決定の経緯としては、昨年12月下旬から今年1月7日まで募集を行ったところ88件の応募があった。その後、公募いただいた名称案を参考に施設名称検討委員会を2回開催し、名称を決定している。決定の理由としては、マルシェという言葉がフランス語で市場を意味し、短く語感がやわらかく覚えやすい、市民に親しまれる名称、対面販売を重視する市場スタイルにあっている、欧風の大屋根にもイメージが合致しているということで決定した。また、事業そのものが、東の核の位置付けであり、西の核であるどうもんパークに呼応する名前として、中市という名称がふさわしいということである。

建築の進捗状況については、2月3日現在で70%の進捗率。建物の躯体はすべて完成しており、内装と仕器の据付工事を中心に進めている。3月上旬には、完成し、建築検査等を受け、3月下旬までには街づくり山口で取得するという段取りになっている。オープンは4月下旬を予定している。

【協議事項】

1. 副会長の指名について

齋藤会長より副会長について、藤本利明氏（山口商工会議所副会頭）を指名する旨の説明があり、全会一致で承認された。

2. 山口市中心市街地活性化基本計画の変更について

山口市担当者から変更内容について別紙資料に基づき説明が行われた。内容については下記の通り。

(1) 米屋町南地区市街地再開発事業

米屋町商店街の南地区において、店舗及び住居を複合的に整備する事業。来街者のニーズに適合した商業施設や利便性の高い住宅を供給することにより中心市街地の魅力を向上し、賑わいの創出とまちなか居住の推進を図るもの。支援内容は、国土交通省の社会資本整備総合交付金を活用予定となっている。

(2) 米屋町商店街北地区整備事業

当初の基本計画においては、米屋町北地区整備事業として記載をしていたが、その後、地元での協議を経て、事業内容の見直しがあり、米屋町南地区市街地再開発事業を実施することとされたので、それに伴い、北地区の整備事業については削除をする。

(3) アルビ跡地事業

変更内容としては、旧アルビ跡地及び隣接する伝統的町家を活用し、旧アルビ跡地については、市場を中心とするテナントミックス店舗を整備、伝統的町家については商店街に不足している、飲食を中心としたコミュニティ施設を設置するものとし、商業施設を集積させるとともに、市民が憩えるような広場、地域交流施設を一体的に整備することで再生を図るという内容に変更するものである。

各事業の実施主体より事業の詳細について説明が行われた。

◇米屋町南地区市街地再開発計画

敷地面積は0.85 ㌶、建築面積は3,900 m²、延床面積は、12,600 m²であり、全体的には、3階建てを中心としたRC造を計画している。商業など複合用途が約4,000 m²、住宅及び関連施設が約5,300 m²、駐車場約1,400 m²ということで、用途としては、店舗、住宅、複合用途で構成している。スケジュールとしては、現時点であるが、基本計画を策定中で、建物調査については、完了していると聞いている。今後のスケジュールとして、平成23年度から事業計画、都市計画の決定、事業認可、組合設立、実施設計、権利変換を行っていきたいと考えている。そして、平成24年度に権利変換の認可と解体工事、平成25年度の竣工を目指して進めている。

◇梅田邸活用事業

梅田邸活用事業は、中市商店街振興組合が主体となって実施。マルシェ中市と山口井筒屋に挟まれた古民家を活用。伝統的なまちやの修復・活用ができないかということで計画。裏道で繋がって回遊性を高めるようなレイアウトを検討している。中庭も活用し、商店街買物客の憩いの広場となるよう考えている。甘味処も計画している。アーケード側も江戸の末期、明治初期がイメージできるファサードに修復し、それに相応しいようなテナントの導入を考えている。平成23年度の戦略補助金を来週申請する段取りとなっている。

以上